**そろそろ、**のによるもろうとしています。この、はをして、いわゆる「のの」、つまり、「」についてくことになります。この「のわりの」とか「」というは、とてもろしくこえますが、一、のしみとがされるときをすでもあります。、のはのわりの、のののりからめたたちので、あるたちはにとのとなるが、あるたちはのにることになるとっています。なをけるたちにとって、そのはなびのですが、のにたちにとって、そのはないがとなるはずです。そのたちは、、また、ののいとなっただと、ダニエルのははっきりとています。それはのしみとのでめ、のたちにそのとを行うたちのことでしょう。はがたちにのをけてくださるとじ、そののできているわけです。でも、そのような心とのいのため、むしろからはなやをけるときもあります。しかし、はそのたちのをごののにしておられます。そして、わりの、をないにいてくださるはずです。

**ので、**イエスはや、などののびについてしながら、のわりのことをえられました。、のみののでイエスは、なやしいをし、に、りのキリストがれることや、くのがのが「ここにある」とか「あそこにある」というにをけてしまうかさについてもされました。それはとろしいことでしょう。しかしイエスは、それらのことがきても、をくしてをじ、また、すれば、がわれるということもはっきりとえてくださいました。のは、そういうなやの、ののわりの日、の、つまり、によってばれたたちのいについてています。その、はいなるとをびてにってられ、われることになっているたちをのにびめるわけです。このをして、イエスはのあるが、どんなのでも、をって、イエスのを守ることができるようにましてくださったのです。そのとはしみいへのであり、そのとはのであるの「いなさい。」というでしょう。それをえてくださったが、それにをってくださらないのはありないことなのです。

**ので、**はのについてっています。のであるはのいけにえ、すなわち、ごのをいけにえとしてげて、すべてのげものをされました。そのイエスのげものは、すべてのがしてげるものとはって、をとのびからにうことができるをっているものです。イエスはそれほどなを、ただにとしみのでげられました。そういうわけで、はののに、イエス様がなさった「とのしがある、をうためのは、もはやではありません。」とにしたのです。パウロがこのようなことをえたのは、のたちも、イエスのように、のをかけていにしうことによって、そのにれることをえるためでしょう。イエスはそういうたちを、のわりの、なものとしてくださり、ごののをけてくださるはずです。

**のみをしながら、**わたしたちののことをえてみました。このコロナウイルスのさなかでも、のくのはやにき込まれて、そのがかされています。のたちはのにかって、まるでが「、」であるかのように、が「の」をれるかのようにっています。ももっとしくなり、のはますますし、よくなるようにはえません。くのがのとをんでいても、このようなは、もうすでにのわれたりだというがします。こんなので、のしいはかについて、わたしたちもをにえるべきだといます。

**ここで、**イエスがおっしゃった「いちじくの」のことを、のとにえてみたいといます。イエスは、「がらかになり、がびると、のづいたことが分かる。」とわれました。そのらかなやびるは、のしるしでしょう。そのように、イエスがびられるまで、はののしるしとならなければなりません。いえれば、はどんなのでも、そのらかさとのをってはならないということです。のらかさとのとはでしょうか。それはうまでもなく、ではないでしょうか。によらず、はらかくなることも、することも、しかも、をぶこともできません。そうなると、られるイエスのしるしとなることもできないでしょう。はをえようとされるのしるしとなるべきです。わたしたちはどんなのでも、にむようにと、イエスのによってばれ、また、ばれている人たちです。これからもいにしいながら、らかでなとなって、のしるしとしてのをたすことができるよう、おりいたします。